

A問題 平均正答率：65.7%（全国：70.0%） 平均無解答率：4.5%（全国：3.6%）

B問題 平均正答率：62.5%（全国：65.4%） 平均無解答率：6.2%（全国：6.1%）

結果チャート

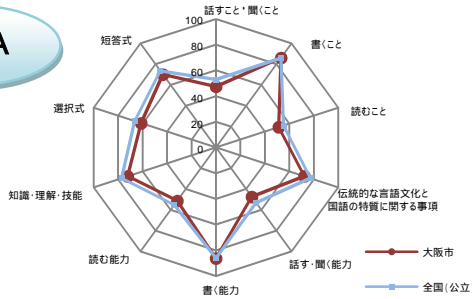
領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

平均正答率及び平均無解答率については、P.2,3 の表を参照のこと。

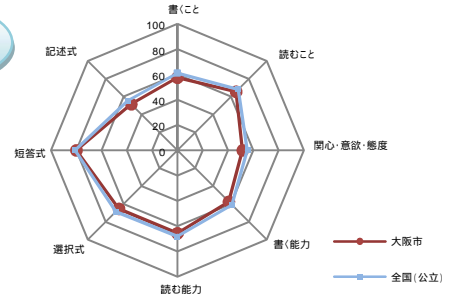
A問題では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」等の項目で低い値を示しています。

B問題では、「書くこと」「記述式」等の項目で低い値を示しています。

国語 A



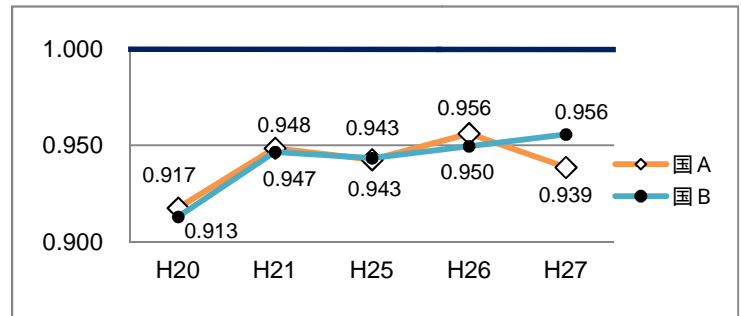
国語 B



対全国比経年比較

対全国比については、悉皆調査の平成20, 21, 25, 26, 27年度を取り上げています。

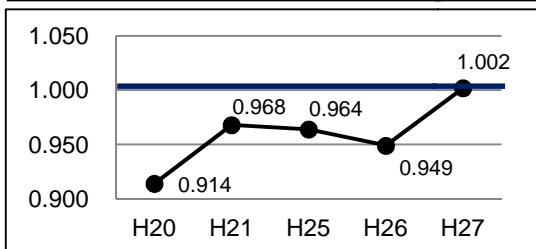
グラフは、全国の平均正答率を1としたときの国語A・国語Bの大阪市の割合を表したものです。



主として知識に関する「書くこと」にがんばりが見られます

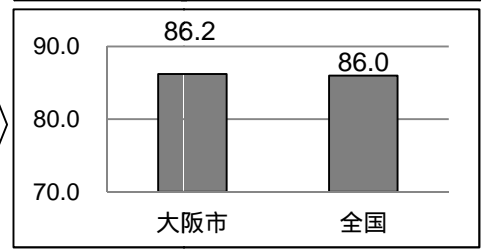
国語 A 「書くこと」領域の問題に改善が見られます。

国語 A 「書くこと」領域の問題の対全国比

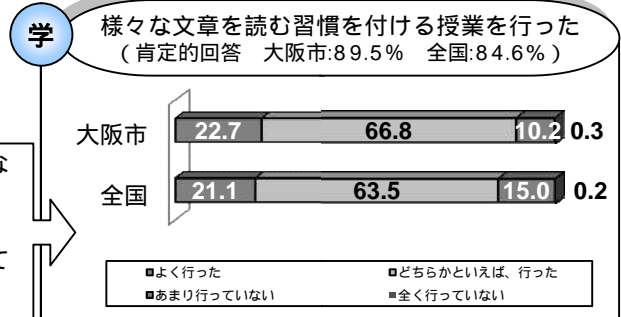
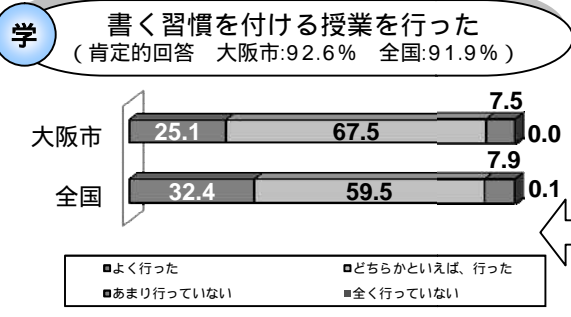


説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選ぶ問題 (A4)

具体的な事例を挙げて説明する問題の正答率



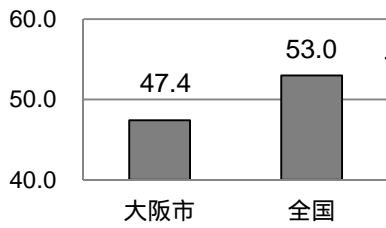
授業では「書く」「読む」習慣を付ける指導が行われています。



肯定的な回答が全国を上回っています

聞き方の工夫や表現の工夫を捉えることに努力が必要です

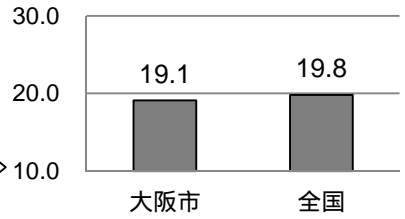
話の内容に対する聞き方を工夫する問題の正答率



美化委員会の提案を聞く際に、聞き手がどのように聞き方を工夫しているかを捉える問題 (A[3])

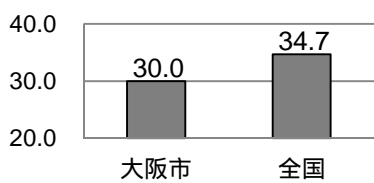
新聞コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く問題 (A[5]二)

新聞コラムを読んで、言葉を引用する問題の正答率



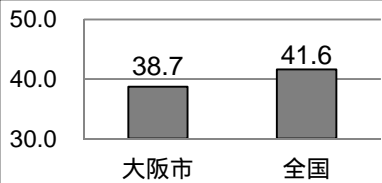
事実と感想、意見などを区別して、自分の考えを書くことに努力が必要です

取材した内容を整理しながら記事を書く問題の正答率



中田さんのインタビューを基に、「話した内容」と「表情や声の調子」を合わせて文を書く問題 (B[1]三)

文章と図を関係付けて、自分の考えを書く問題の正答率



「楽器の分担図」を基に、「ゆずり合って解決する」内容を取り上げて文を書く問題 (B[2]三)

児

目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている (肯定的回答 大阪市:53.6% 全国:65.2%)



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

肯定的な回答が全国を下回っています

学校で

- 文章と図とを関連付けて読み、自分の考えをまとめる力を育みます。
- 読書タイムや朝の一斉読書の時間を設けるなど、読書習慣の形成を図ります。
- 言語活動の充実を図り、根拠を明確にして分かりやすく説明する力を育みます。
- 習熟度別少人数授業を通して、一人一人の習熟の程度に合った指導を進めます。
- 「学習教材データ配信」などを活用し、漢字や語句の意味など、基礎的・基本的な事項の定着や知識を活用する力を育みます。

家庭で

- 読み聞かせや親子読書を楽しみましょう。
- 日々の発見や感動した出来事をノートに書きましょう。
- 日常生活で話したり聞いたりすることを大切に、家族で会話をする時間をつくりましょう。

効果があった取組例

- 詩の朗読発表会や、6年生が選んだ本を1年生に読み聞かせする活動など、読書活動の充実を図っています。
- 聞いたことや読み取ったことを、短い言葉で書きまとめる活動や、ペア・グループなどで話し合う活動を積極的に取り入れています。
- 45分の授業の中で、自分の思いや考えをノートに書く活動や単元終了後に「できるようになったこと」や「がんばったこと」など、自己を振り返って書く活動を取り入れています。

大阪市の取組

「言語力や理論的思考能力の育成」(P.44)「習熟度別少人数授業の実施」(P.44)
「学習教材データ配信」(P.45)「学校図書館活性化事業・学校図書館活用推進事業」(P.46)

課題と指導のポイント

【国語 A】(主として「知識」に関する問題)

調査問題の中で大阪市の子どもの平均正答率が特に低い問題
全国と比べて平均正答率の差が大きい問題
大阪市として継続して課題がみられる問題

課題

話の内容に対する聞き方を工夫すること

- 3 設問の概要 聞き方の説明として適切なものを選択する。 [正答率 大阪市:47.4% 全国:53.0%]
学習指導要領における領域 [第5学年及び第6学年] A 話すこと・聞くこと

指導のポイント

各学年で目的や意図に応じて聞き方を工夫することができるようにする

【提案について聞き方を工夫して話を聞く学習活動】

1 提案を聞き、大事だと思ったことや考えたことを各自ノートに書く
提案について、既習事項を基に話の中心に気を付けて聞き、大事だと思ったことや考えたことを各自ノートに書く。

2 各自ノートに書いた自分の考えを発表し合い、分類・整理する
各自ノートに書いた自分の考えを発表し合い、互いの考えを比べ、共通点や相違点、関連して考えたことを整理し、「聞き方のポイント」としてまとめる。

【聞き方のポイント】

提案の理由に着目して聞く
提案の内容と自分(たち)の様子とを重ね合わせて聞く
提案の効果や妥当性を判断しながら聞く

3 「聞き方のポイント」に気を付けてもう一度提案を聞き、自分の聞き方を振り返る

自分の聞き方を振り返り、聞き方の工夫について自分の課題を捉え、日常生活においても意識できるようにする。

【美化委員会からの提案の一部】
最近、校内の上これが気になります。みなさんの中には、そうじに一生懸命取り組んでいます。中には、おしべりばかりしている人や取りかかりが弱い人もいます。そこで美化委員会から、来月の全校美化週間に、おしべり組むことと、次のように提案します。それは、(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) を含み言葉に取り組みます。
(ア) さつと取りかか
(イ) しずかに
(ウ) すみずみまで
(エ) せいじばい
(オ) そうじしよう
これらを含み言葉に、みんなでかを合わせ、きれいな学校にしていきたいです。
(提案が続き) 5

【青木さんの心の中の声】
A そうじに対する取り組みの問題点などをもとに、提案しているんだな。
B 六年生は「さつと取りかか」と「すみずみまで」については、あまりできていないような気がするわ。
C 低学年にも分かりやすいな。これなら、そうじのときに合言葉として声をかけ合うことになるだろうから、さつと効果が上がるわ。

課題

新聞コラムを読んで、表現の工夫を捉えること

- 5二 設問の概要 コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く。 [正答率 大阪市:19.1% 全国:19.8%]
学習指導要領における領域 [第5学年及び第6学年] C 読むこと

指導のポイント

目的に応じて、適切に引用することができるようにする

「引用」とは、本や文章の一節や文、語句などを引いてくることであり、実生活で生きて働く国語の能力として、目的に応じて、適切に引用することができるようになることは極めて大切である。このため、かぎ(「」)でくくることなど、引用の仕方を指導するとともに、引用したことについて、児童が自分の思いや考えを書くことなども指導することが必要である。

これらの指導においては、目的によって、どの文献のどこをどの程度引用するかが決まってくることから、「自分の考えを補説したい」、「説得力を高めたり、具体例を挙げて読み手を納得させたりしたい」などの目的意識をもつことができるようにすることが重要である。したがって、引用については、児童が引用する目的意識や必要性を十分にもてる言語活動を位置付け、課題解決の過程において指導することが必要である。

二 筆者は、自分の思いや考えを根拠付けるためにある言葉を引用しています。それはどの言葉ですか。最も適切な言葉のはじめの五文字を書きまじょう。ただし、句点(。)、かぎ(「」)は字数に含みません。

【コラム】
記事の中の▼は、まじまりを表す印です。
1 ▼四月二十三日は「子ども読書の日」。世界では「世界本の日」とも呼ばれている。本とその作者たちを敬うのも、読書の楽しみを味わう日である。2 ▼子供のころ、宮沢賢治の「セロ弾きのゴーシュ」に夢中になった。栗田の中で、一番へたなセロ弾きである「ゴーシュ」が、動物たちとの出会いを通して成長していく様子に心がおどった。3 ▼ある作家の言葉に、「読書というものは、その時その時によって読みの味わいがちがう」というものがある。子供時代に読んだ本を大人になって読み返すと、また別の楽しみが味わえるものだ。4 ▼先日、「セロ弾きのゴーシュ」を再び読んだ。当時は気付けなかった人物の描写に、賢治のすばらしさを実感した。5 ▼世界の子どもたちも、かかって子供であった大人も童心に返って本を楽しむ。そんなひとときもよいものだ。

【国語 B】(主として「活用」に関する問題)

課題

目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くこと

1三 設問の概要 【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く。

学習指導要領における領域

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと

〔正答率 大阪市:30.0% 全国:34.7%〕

指導のポイント

取材した複数の内容を整理して、読み手に分かりやすく伝えることができるようにする

取材した内容を新聞記事として書く際に、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じ、伝えたい内容が十分に伝わるように、取材した複数の内容を整理して書く必要がある。

具体的には、読み手に伝えたいことの内容を明確にした上で、自分で調べた内容や、関係者に取材した事柄の中から取捨選択し、伝えたいことが読み手に伝わるように、整理して記事を書く指導が考えられる。

〔内容を整理して記事を詳しく書くポイント〕

1 インタビューの話の内容などを見直す

2 写真資料などで活動の様子を確かめる

3 参加者の意見や感想を聞く

取り出し、その言葉と表情や声の調子の中の内容を合わせて、「一文で書く」という理由が分かる言葉を、話した内容の中から「」を使って

話した内容
あやとりのコピーに参加してよかったね
それはね、1年生のみんなに様々な形を教えてあげたら喜んでくれたからね
みなさんも準備が大変だったことでしょうか
町で会ったときはじめて声をかけてください
今度の案内も楽しみにしています。

・表情や声の様子
・目を細めて
・明確に



中田とよさん



課題

文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くこと

2三 設問の概要 楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く。

学習指導要領における領域

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと C 読むこと

〔正答率 大阪市:38.7% 全国:41.6%〕

指導のポイント

図表やグラフなどを読み、文章と関係付けて自分の考えをまとめることができるようにする

【図表やグラフを読むこと】

筆者は、図表やグラフなどを用いることによって、伝えたいことを説得力をもって伝えようとしている。

【図表やグラフの読み取りポイント】

何を表す図表やグラフか
図表やグラフの中にあるそれぞれの情報は何を表しているか
どの言葉や数字に注目するのがよいか
注目する言葉や数字は何を意味するか

【文章と図表やグラフの関係やその効果を捉えること】

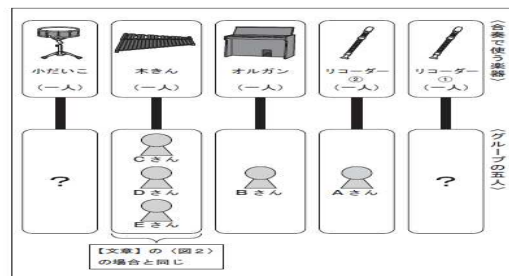
図表やグラフを読み取るとともに、文章と図表を関係付けて読むことが大切である。その際に、

図表やグラフの内容が文章のどこに取り上げられているか

どの程度詳しく、簡潔に説明されているか

図表やグラフがあることによって文章がどのように分かりやすくなっているか

を捉えることが必要である。



「図2」は、「選択肢」が複数で、「選択肢」が一つの場合です。例えば、学校図書館のたぐさんの本の中で人気のある一冊の本に何人かの人が集まるような場面です。このような場面では、だれがその本を借りることにするか、折り合いをつけて決めていくことが大切です。たがいに折り合いをつけて解決することを、「折り合い」といいます。

授業の改善・充実を図る際の参考事例

「平成27年度全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイディア例」P.3~8
国立教育政策研究所ウェブサイト <https://www.nier.go.jp/jugyourei/h27/idea-01.html>